

佐藤 和宏 著

民間貸家経営と家主の果たした役割

～くいつぶし型経営の歴史的意義～

「適切な」利潤が圧迫されても、経営が継続されるという特殊性を有しているのが、くいつぶし型経営の定義である。このくいつぶし型経営が、住まいの問題に対して様々な役割を果たしたことによって、住まいの社会問題化を未然に防いだのではないかと著者は考えた。本書では、高度経済成長期におけるくいつぶし型経営とその意義にスポットを当てて、現在の住まいの問題についてどう考えたらいいかという問いに貢献したい。(本文より)

<もくじ>

はじめに一なぜ今、住まいが問題になったのか

1 どうして民間借家が問題なのか？

—くいつぶし型経営の歴史的諸前提

- (1) 民間借家はどのように問題になってきたか
- (2) 日本において借家はどうか問題になったか
- (3) 本書のアプローチ—社会学の観点から

2 くいつぶし型経営 —戦後日本の民間貸家経営

- (1) くいつぶし型経営とはなにか
- (2) くいつぶし型経営の諸前提
- (3) くいつぶし型経営のメカニズム
- (4) 家主の諸属性と経営条件
- (5) 家主にとっての合理性—経営合理性の検討

3 くいつぶし型経営の諸機能

- (1) 住宅の量的不足に対する積極的貢献
- (2) 「相対的」低家賃の実現
- (3) 借家関係による住宅問題の抑制・無力化

4 くいつぶし型経営の変容と現在

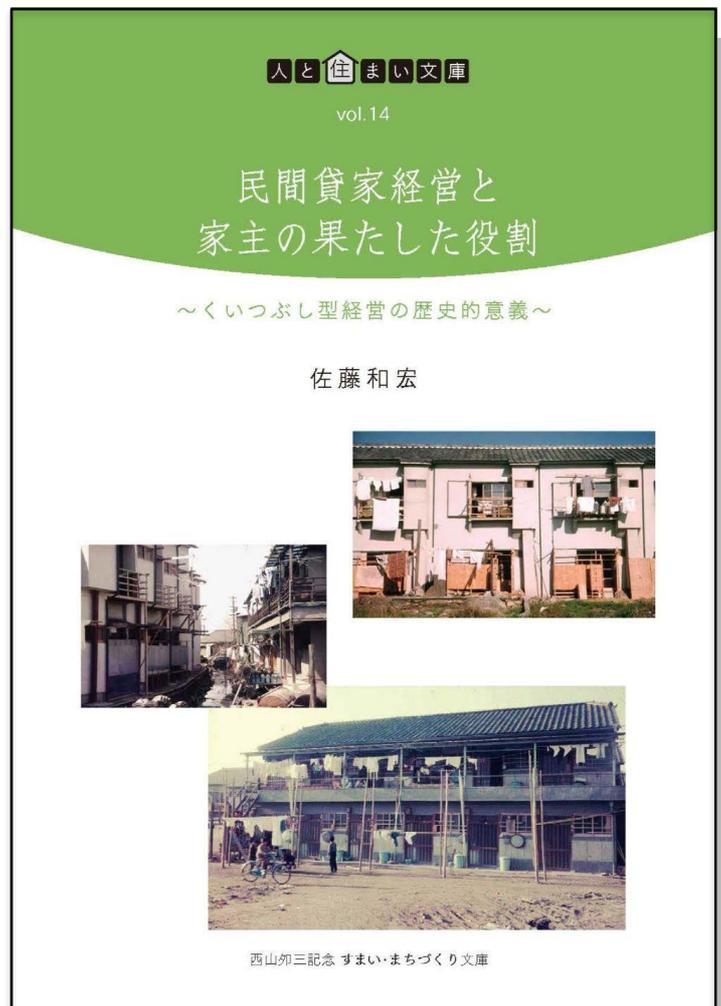
- (1) くいつぶし型経営への介入の困難
- (2) くいつぶし型経営・その後

5 まとめ

おわりに

購入ご希望の皆様

当シリーズは「地方・小出版流通センター」に販売業務を委託しています。できましたら、このチラシの情報により最寄の書店でご注文ください。その際、書名・文庫名とともに「地方・小出版流通センター扱いです」と書店員の方に教えてください。各ネット書店でも扱っている場合があります。お急ぎの方は、地方・小出版流通センターHP「ご注文方法」や、従来通り当文庫HP「出版物頒布」に沿って、どちらからもご注文もいただけます。



ISBN 978-4-909395-13-9 C0052 ¥1000E

定価 1,100 円 (本体 1,000 円 + 税 10%)

地方・小出版流通センター取扱品